

8. 交差シート(方法1) インストラクション

交差には2つの方法があります。気づきを得やすい方を選択します。折衷して用いてもかまいません。初心者には方法1を推奨します。

- ① このシートは、必要枚数分コピーして用います。
パターン抽出シートのパターンクラスターは、フェルトセンスの側面を表していますが、フェルトセンスの側面は、いくらでも細かく切り出すことができます。既に切り出した側面を組み合わせせて(交差させて)検討することにより、まだ、表れていない側面を切り出します。ここでは、論理的推論とフェルトセンスの応答の両方を使います。
- ② 交差するシートのパターン前半部と、交差されるシートのパターン後半部を、意味を考慮せずに組み合わせせて文を作ります。これを交差パターンと呼びます。交差パターンをフェルトセンスに照らし、あてはまるかどうか自問します。あてはまる場合は理由を書きます。修正すればあてはまる場合は修正し、その理由を書きます。あてはまらない場合も、その理由を書きます。その他、浮かんでくることを自由に書きながら新しいパターンを見出します。最後に、新パターンがフェルトセンスにあてはまる程度を判定します。判定は、「よくあてはまる」は「◎」、「あてはまる」は「○」、「しっくりこない」は「△」などと決め、印をつけておきます。

8. 交差シート(方法2) インストラクション

- ① このシートは、必要枚数分コピーして用います。
パターン抽出シートパターンクラスターは、フェルトセンスの側面を表していますが、フェルトセンスの側面は、いくらでも細かく切り出すことができます。既に切り出した側面を組み合わせせて(交差させて)検討することにより、まだ、表れていない側面を切り出します。ここでは、論理的推論とフェルトセンスの応答の両方を使います。
- ② パターン前半部を交差の観点とします。交差するシートの観点から、交差されるシートを検討し、気づくことはないだろうかと自問します。気づきが浮かんでくる場合には、それを書きます。論理的に推論して仮説を立て、それがあてはまるかどうかを考える方法もあります。その他、浮かんでくることを自由に書きながら新しいパターンを見出します。最後に、新パターンがフェルトセンスにあてはまる程度を判定します。判定は、「よくあてはまる」は「◎」、「あてはまる」は「○」、「しっくりこない」は「△」などと決め、印をつけておきます。